



大阪市立大学  
工学部同窓会

# 同窓会だより

1985年11月20日  
大阪市立大学工学部同窓会  
〒558 大阪市住吉区杉本3丁目  
3-138 TEL 06(692)1231代  
発行人 足立幸一

## ごあいさつ

同窓会会長 足立幸一



大阪市立大学は早や創立105周年になりますが、工学部も創立40周年を過ぎた一つの節目を迎えています。

工学部同窓会は会員数 6,000名余に達し、基礎が整い、ますます発展する時期にあると思われま

す。これも会員の方々の努力はもとより、これまでの役員、事務局のリードによるところ大であり、感謝いたしております。

このような時期に同窓会長をやらせていただくことになり、一言あいさつ申し上げますとともに、重任であることをひしひしと感じております。

世の中は、先端技術等の研究開発がますます進み、かつ幸せな社会や都市づくりの複合技術、ないしは総合化技術が要請され、工学分野の技術者があらためて重要な任務をになうことになっていくにちがいありません。

皆様方の間に、同窓会場の場を通して円滑で快適で密なコミュニケーションが醸成されればと願っております。これは種々の場における話し合いの積み重ねによって導びかれるものと思われま

す。その意味からも皆様方のご協力とご指導を切にお願い申し上げます。

本会の当面の課題としては、大阪市立大学同窓会としての連合化の問題があります。また、工学部創立40周年記念事業への協力があります。同事業への協力は、前会長井田憲治氏をはじめとする関係者各位の努力によってレールが敷かれ、副会長東田和郎氏をはじめ多くの方々のご尽力により同事業のための募金活動に対する支援が展開されています。

会員の皆様には諸事項について、これまでも増してよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。いづれにしても、本会の活動を楽しく進めていけるようすこしずつ歩めればと思っております。

会員各位のご健康とご発展をお祈り致しますとともに、以上、会報5号の発行にあたりごあいさつ申し上げます。

(建築・昭和29年卒・大阪市総合計画局技術監)

## 同窓の皆様へ

名誉会長 安藤 慶一



昨秋 300名近くの方々の御出席のもとに盛大裏に創立40周年の記念式典と祝賀会を催してから早や1年近くなりました。記念事業の目玉であります工学部学术交流センターに関しましては皆様の御協力により順調に進んでおりまして、

一日も早く竣工して学部に活気ある新風が流れ始めることを祈念しております。また大学の創立 100周年記念事業の1つであります工作技術センターは本年1月から仕事を開始しましたが、利用者数は増加の一途をたどっており、工学部の数育研究活動にも大きく寄与し始めております。更にまた、今年の8月、工学部に共同利用の大型設備備品として電子線複合マイクロアナライザーが設置されました。これは大阪市が市大理系学部・研究所の発展と地域社会への貢献を目的として経常的予算では購入できないような高額の大型設備備品の購入を認める特別の取り計らいによるものであります。大阪市がマイナスシーリングの続く苦しい財政のなかで、このような特別援助の道を構えられたことは工学部にとっては正に砂漠での慈雨でありまして、飛躍への機運がようやく開けてきたような気が致します。

一方、全学的には、昨年度から市大の20年後に焦点を合わせた改革マスタープランの作成が進められて来ておりましたが、此の度その基本構想がまとまり、この10月から基本計画の段階に入ろうとしております。基本構想は創造性ゆたかな都市総合大学への改革をめざしての研究教育の基盤的改革と条件整備、新しい社会的要請への対応、及び新しい大学へ向けての基盤整備の3本柱からなる膨大なものでありますが、工学部自体のものとしては大学院の拡充、及び高度技術や境界領域の研究開発をめざす工学研究開発センターの設立などの構想が含まれております。

21世紀に向けて大学も工学部も今や大きく胎動し始めております。同窓の皆様には何卒よろしく御後援の程をお願い申し上げます。(工学部長・電気工学科教授)

## 同窓会の皆様へ

森島 直正



同窓会の皆様はこの紙上では始めて御挨拶申し上げます。工学部創立40周年が昭和58年ですから、その半分近くを杉本町学舎（昭和41年移転）で過したことになります。今はすっかり変わってしまった扇町学舎時代の思い出は日々に遠

くなり、紙一枚、ボルト一本も大事に使っていた苦勞を知る人も、今ではすくなくなっていました。今年度は、機械工学科での人事移動はなく、また来春卒業予定の学生の就職状況も極めて好調でした。以下に各講座の現況と研究テーマを簡単に記しておきます。

材料力学講座〔藤井太一教授、水川清助教授、福田武人講師、逢坂勝彦助手、板見和夫技術員、4回生7名、大学院MC3名〕研究テーマ：複合材料の微視的応力分布と強度、FRPパイプの曲げ・ねじり荷重下の変形と破壊、GRP積層板の低サイクル疲労挙動と非破壊検査、2軸荷重を受けるGRP積層板の破壊挙動。

熱工学及び化学機械講座〔兵働務教授、野邑奉弘助手、4回生4名、大学院MC3名〕研究テーマ：過熱蒸気中での乾燥機構の解折、高温・高湿度中での湿度の測定と制御、スターリングサイクルの研究。

流体工学講座〔森島直正教授、東恒雄講師、布部誠助手、4回生6名、大学院MC1名〕研究テーマ：放射状液膜流れの乱流遷移、三次元境界層の乱流遷移、自由液膜流の乱流遷移、管路における流量計測、粉粒体層中の液流れ、液体の微粒化、トムズ効果。

機械設計工学及び繊維機械講座〔上田祐男教授、深井完祐講師、南斎征夫講師、4回生6名、大学院MC2名〕研究テーマ：金属材料及び高分子材料の強度と摩擦摩耗、高分子材料の大変形レオロジー、繊維加工過程の基本操作一般。

機械工作及び機械材料講座〔玉村謙太郎教授、上神謙次郎講師、森元時夫助手、若林三記夫助手、橋本猛技術員、4回生9名、大学院MC3名（内1名は留学生）〕研究テーマ：切削油剤・研削油剤及びふん囲気的作用と効果、セラミックスの複合加工、パニシ加工、ダイヤモンドの研磨、仕上面残留応力の発生機構とX線の測定。

内燃機関及び測定工学講座〔東野一郎教授、守田栄之助教授、渡邊紀彦講師、秋山貞夫助手、4回生6名、大学院MC5名〕研究テーマ：内燃機関の計測・データ処理法及び故障診断、内燃機関の最適化制御。

機械工作室（工学部付置）〔中山守助教授、工藤勝久技術員、4回生2名〕研究テーマ：研削油剤に関する研究。（機械工学科主任教授）

## 電気工学科の現状

堤 四郎



同窓の皆様には益々御活躍のことと御慶び申し上げます。昨今の技術社会での急激な変転振りについては多くが語られていますが、これに連動しての来春のリクルートに寄せる各界の要望もまた一段と熱気が感じられます。春以降来

訪下さった多数の諸先輩方のお話からも本学後輩に寄せる期待の重さを痛感させられております。私共もこれに答えるべく益々精進を重ねたいものと考えておりますが、何卒皆様方にも今後ひきつづき母校の発展と後進の成長のために御援助を賜ります様によりしくお願い申し上げます。

電気回路学講座〔堤四郎教授、鈴木裕講師、南繁行助手、4回生5名、MC1名〕上層大気の力学的研究、宇宙空間プラズマに関する研究、極域異常現象の研究、電磁現象の医療応用。

電子回路学講座〔志水英二教授、松下賢二助手、重田和夫助手、4回生7名、MC4名、DC1名〕オプトエレクトロニクス、光情報処理、空間変調器、セルラオートマタ、マイクロコンピュータとその応用。

電気通信工学講座〔山下一美教授、細川省一助教授、岡本次郎講師、浜裕光助手、4回生11名、MC3名、DC1名〕音声・画像情報の高能率符号化方式、音声分析・合成・認識、ローカルエリアネットワーク、視聴覚神経系における情報処理、パターン認識、医用画像の計算処理と自動診断の応用。

電気計測工学講座〔安藤慶一教授、前川義治講師、青笹正夫講師、草間稔助手、4回生6名、MC2名〕薄膜EL素子の多色化と低電圧化、アモルファスシリコン薄膜の生成と応用、グロー放電重合薄膜によるプラスチック表面の改質、海洋環境計測。

電気機器学講座〔安藤慶一教授、建部渉講師、渡辺博巳講師、森下 昂助手、4回生6名、MC4名〕小形電気機器の特性改善、パワーエレクトロニクスの電気機器への応用、海洋汚染の調査研究。

情報工学講座〔奥本隆昭教授、藤原直賀人講師、4回生5名、MC1名〕学習認識システム、音声・画像情報の分析・認識、並列処理アルゴリズム、ファジイアルゴリズム、発見的学習行動、データ通信における誤り制御方式、コンピュータネットワークに関する研究。

（電気工学科主任教授）

## 応用化学教室の近況



平井 竹次

まず、人事消息からお知らせします。5月に、佐藤恒之講師が徳島大学工学部に転出されました。続いて、6月末に大橋邦夫助教授が松尾電機㈱の研究担当職に転出されました。10月1日付で梶章講師、山田文一郎講師がそれぞれ助

教授に、園藤紀代司助手が講師に昇任され、松本章一助手が誕生しました。園藤紀代司講師、三浦洋一助手が一年間の海外出張をされます。今年も新入講座生37名を迎え、各講座とも教育に熱が入ってきました。研究態勢もさらに厚みを増してきました。外部からもリベラルな都市大学として一層高い評価をうけています。各講座の構成、研究テーマをご紹介します。

無機工業化学講座〔平井竹次教授、梶章助教授、五百井正樹助手、4回生9名、研究生1名、大学院MC4名〕電池工学、電極反応解析、電解合成および機構解析、浅海湖沼環境科学など。

有機工業化学講座〔太垣和一郎教授、幸塚正児助教授、玉垣誠三講師、荻野健治助手、4回生6名、研究生3名、大学院MC5名、DC2名〕有機反応機構、人工酵素の分子設計、界面活性物質の分子設計とミセル触媒反応、有機金属化合物の反応機構など。

反応工学講座〔原納淑郎教授、小郷良明助教授、矢野元威講師、大嶋寛助手、4回生7名、大学院MC5名、DC2名〕CVD等による触媒調製法の開発、セルロースの糖化・発酵、酵素法によるペプチド合成、溶液からの無機塩・ペプチド・蛋白の核化と成長、石炭の溶剤水添液化など。

合成化学講座〔木下雅悦教授、仲矢忠雄助教授、岡枝紀夫講師、山内清助手、三浦洋三助手、4回生8名、研究生1名、大学院MC6名〕機能性高分子の合成、生体関連高分子の合成、ラジカル重合反応の解析、およびこれらに関連する有機合成反応の研究。

高分子化学講座〔天津隆行教授、山田文一郎助教授、園藤紀代司講師、松本章一助手、森薫輝技術員、4回生7名、大学院MC5名、DC1名〕ラジカル重合の素反応解析、モノマーの構造と反応性、フマル酸およびマレイン酸誘導体の合成と性質、オレフィン類の重合など。

(応用化学科主任教授)

## 土木工学教室の近況報告

中井 博



昭和60年3月末に三瀬教授、倉田講師、堀川助手が退職され、この4月からは本多教授、貫上助手、鬼頭助手が着任されました。最近、土木教室では、国際会議への参加が活発で、今年になってから既に、高田助教授が1月にフロリダへ、

三笠教授、高田助教授、東田助手が8月にサンフランシスコへ、私も9月にルクセンブルへ出張しました。昨年12月には、真鳴助手が本学の博士号を修得されました。なお、以下には教室の近況を示します。

構造工学講座〔園田恵一郎教授、小林治俊助手、鬼頭宏明助手、4回生6名、大学院MC2名、DC1名〕研究テーマ：輪荷重によるRC床版の疲労性状、鋼板・コンクリート合成板の力学的特性、平板構造物の動的応答解析、三次元有限要素法による厚板問題の解析。

土質工学講座〔三笠正人教授、高田直俊助教授、望月秋利講師、東田淳助手、4回生7名、大学院MC6名、DC1名、研修生1名(中国)〕研究テーマ：遠心力模型実験の相似性、斜面安定、地中埋設管、粘土の強度異方性礫質土の締固め、3主応力独立載荷三軸試験、等。

土木材料及び環境工学講座〔本多淳裕教授、西堀忠信助教授、山田優助教授、真鳴光保助手、貫上佳則助手、池崎浩三技術員、4回生10名、大学院MC2名、研修生1名〕研究テーマ：コンクリート及び鉄筋コンクリート、舗装、廃棄物・汚泥・廃水・悪臭処理、リサイクル。

土木計画学講座〔西村 昂教授、岡村治子助手、日野泰雄助手、城滝好夫技術員、4回生8名、大学院MC2名〕研究テーマ：交通容量理論、交通網理論、交通量・交通渋滞の分析、住宅地区交通環境評価、排ガス・騒音の予測、道路維持管理計画、土地利用と交通、案内標識等。

河海工学講座〔小田一紀教授、久保直講師、角野昇八助手、小池敏也技術員、4回生5名、大学院MC4名、研究生2名〕研究テーマ：船舶を含む浮遊構造物の係留問題、大水深海洋構造物の地震応答および波力問題、直立消波構造の波浪制御機能に関する境界値問題などの解析。

橋梁工学講座〔中井博教授、北田俊行助教授、酒造敏廣助手、三井義紀技術員、4回生7名、大学院MC4名、研究生2名〕研究テーマ：曲線桁橋、合成柱、鋼製ラーメン橋脚とその隅角部、斜張橋タワー、圧縮補剛板、プレキャスト床版合成桁等の耐荷力および設計法。

(土木工学科主任教授)

## 建築学科の近況

日置興一郎



建築学科では今年技術員の辻秀朗君が大阪市都市整備局へ移り、新しく坂本幸弘君が就任した他は異動はなく、それぞれが研究・教育に熱意をこめてあたっている。最近では留学生も多く、中国、ブラジル等から来ており、学生とおし

の国際交流も盛んである。学生の就職については多少良い状態になったというが、これは良き先輩達の信用によるものであることを痛感している。卒業生諸氏の活躍が後輩を引き立てているわけで、感謝している。なお各講座の研究テーマなどの状況は次のとおりである。

建築防災及び建築材料科学講座〔川村純夫教授、下鳥正孝助教授、木本英爾講師、木内龍彦助手、4回生17名、大学院MC3名、研究生1名〕研究テーマ：吊り屋根構造、空気膜構造、ドーム構造等の耐風性に関する研究。コンクリートの収縮に関する研究。

建築構造学講座〔日置興一郎教授、坂壽二講師、那谷晴一郎助手、村上益美助手、4回生6名、大学院MC2名〕研究テーマ：ラチス柱、二層立体トラス平板、ラチスシェルといった立体構造の研究を中心に行い、座屈、塑性等を含む非線形問題の実用的取り扱い法の確立を目指している。

建築環境工学講座〔成瀬哲生教授、太田洋一講師、新居洋子助手、大倉良司助手、4回生7名、大学院MC3名〕研究テーマ：省エネルギーのための室内熱・空気環境条件と人体反応に関する研究。建築材料表面の分光特性の実験研究、交通騒音制御のための基礎的研究等。

都市計画講座〔三輪雅久教授、斎藤和夫助教授、濱田学昭講師、赤崎弘平助手、4回生2名、大学院MC4名DC1名、研究生1名〕研究テーマ：大阪市における都市計画前史、明治期築規制、地域・都市における人口と土地利用、地区計画等に関する研究。その他海外を含む各地の地域計画、都市計画立案のための調査研究。

建築計画及び建築史講座〔多胡進教授、福田晴彦講師、杉山茂一講師、中野明助手、4回生3名〕研究テーマ：大規模中高層集合住宅の供給促進に関する調査研究。小・中学校の計画、欧米五ヶ国の集合住宅の最近の諸動向、都市居住地における福祉モデルエリアの計画、住宅地の設計などに関する研究。18世紀イタリアにおける劇場に関する研究。その他各種ケーススタディへの参加。

(建築学科主任教授)

## 応用物理学科の現況

人見 宗男



応用物理学科ご卒業の皆さんお元気でご活躍ですか。お陰さまで来春の卒業生の進路はほぼ希望通りに決まりました。さて、兼松太教授は昨年来の闘病を続けておられ、林野正善技術員が工作技術センターに移られました。しかしこの10

月には、西村仁助教授(37年卒)と森雄造講師(41年卒)が誕生し、教員の充実も進みました。今後も、一切切磋琢磨し、当学科の研究と教育の成果を高めたい所存です。卒業生諸兄にも、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げる次第です。なお、ご参考までに、現在の主要な研究テーマをお知らせ致します。

兼松太教授、美馬宏司講師、藤井康夫助手、4回生5名…研究テーマ：真空計測、小型質量分析計、オージェ分光による固体表面の研究。

大倉照教授、森雄造講師、4回生5名、大学院MC4名…研究テーマ：レーザー光励起状態の動的緩和、半導体中の深い準位の光・磁気効果、光励起効果の画像計測。

横田万里夫教授、谷本信助教授、4回生1名、大学院MC1名、DC6名…研究テーマ：非線型分光の理論の開発とその4波混合系等への適用、電導性一次元物質の電子構造、ソリトンの研究。

村井昭教授、曾我部伸講師、4回生4名、大学院MC3名、DC1名、研究生2名…研究テーマ：CO<sub>2</sub>レーザーを用いた遠赤外光の発生と赤外分光、Dyeレーザーによる原子分光、Alexandriteレーザーによる気体のRaman散乱と可同調赤外光源の開発、自由電子レーザー(FEL)の研究。

西村仁助教授、4回生4名、大学院DC1名…研究テーマ：イオン結晶および有機半導体における励起子の研究。

笹沼道雄助教授、4回生1名…研究テーマ：ポリシロキ酸、珪酸化合物中での赤外・可視変換過程の研究。

石黒英治助手、4回生3名…研究テーマ：回折格子分光器の設計、浅海用多チャンネル濁度計の開発、有機結晶の熱刺激電流、境界要素法の電界分布への適用。

人見宗男講師、北田忠義助手、串部宏之助手、4回生2名、大学院MC1名…研究テーマ、レーザー光の散乱による海中微粒子の実時間計測、浅海用多チャンネル濁度計、超音波流速計、浅海底層における粒状物質の移動、播磨灘の赤潮。

鶴飼正二助教授、4回生2名…研究テーマ：非線型偏微分方程式の研究。(応用物理学科講師)

同窓のきずな

小谷 昇



卒業してからすぐに、母校である大阪市立都島工業高等学校につとめ、37年たつ。母校につとめていると、どうしても卒業生ということで、同窓会関係の仕事がまわってくるのがふつうである。私もおきまり通り、出身科である土木

科の同窓会(会の名称を昭土会という)の事務局を引き受けている。そのようなわけで、古い卒業生から新しい卒業生まで広い範囲にわたって顔見知りができ、公私にわたりご交誼を賜わっている。

都工全体の同窓会を浪速工業会といい、同窓会では珍しい公益法人(昭和9年に社団法人となる)であり、この会の役員会にもときどき顔を出している。浪速工業会は、設置6学科の同窓会(部会という)から選出された役員で運営されている。各部会のまとまりが、浪速工業会の隆盛に影響する。市大工学部の同窓会運営も、都工の場合と似ている。各学科同窓会の、強いきずなを期待するものである。

(土木・昭和23年卒・大阪市立都島工業高等学校教諭)

技術と心

小西 峻二



私は技術と心とは本来釣合のしたものであるべき、と考えています。

しかし、現状は校内暴力、いじめに始まり、豊田商事商法、マンズワイン商法、更に、国際間の摩擦の数々、これらは全て心の問題を軽ろんじ、相手の気持ちを無視し、技術のみに走ったため、詰込教育、如何に買わせるか?のみを考えた経営、品質・性能・価格に優れてさえおれば全て善しとする考え方、会社に於ても業績のみを追求する考え方は無理が加わる。更に、無理を加える事が目標との考え方に陥り、遂にはその集団は歪み、崩れてゆくであります。

21世紀に生き残るためには心の問題を忘れてはならないと思う。思いやりとか、やさしさを基本にした教育であり、企業活動であり、国際間の交流であれば全てが円滑にゆくでしょう。ややもすれば業績志向に陥ります。技術と心を大切にすべきだと思います。

(機械、昭和33年卒、富士車輛(株)本社管理部副部長)

花の二八

橋本 賢一



その頃の扇町は廢墟であった。南学舎は小学校の屋上に小屋を作った教室、北学舎、天満駅前の工研の三ヶ所をアッチコッチと歩き廻って実験や講義を受けたものである。設備は恵まれなかったが学生10人に先生30人余と恵まれていた。

強電はト部・松本両君と私の3人。その1人が朝遅刻するとその人の為に来る迄講義を待って頂ける。花の二八と云われるが旧制大学と同時卒業で我々新制組は割を喰って就職戦線から大半がアブレてしまった。リクルート活動で後輩を引込む今は隔世の感がする。来春も電気・応物から数人来てもらえるので楽しみだ。私どもに100人余の市大卒がいるが元気よく、要所要所で頑張っている。新入社員には一つの専門分野と広い常識をもった人、即ちT型人間から二つ以上の専門分野に強いπ型人間になれと励ましている。情報処理だ。通信だ。ハイテクだと技術の進歩はめざましい。その技術がつくる豊かな社会を創造するために、まだまだ歩み続けたい。

(電気、昭和28年卒、三菱電機(株)通信機製作所)

電気工学科の今昔

細川 省一



母校の電気工学科に勤務していますので、学科の現状をお伝えします。とはいっても、公式データは、しかるべき人がお書きになると思いますので、私家版現状報告です。以下の数には記憶と推定によるものが多いので、そのオーダ

ーだけを参考にしてください。なお括弧内は昭和35年頃の値です。

講座数	6(4) 講座
在籍教員数	19(15) 名
昭和35年以後の在籍教員数	3 名
4 回生の在籍学生数	40(25)内女性 1(0)名
大学院の在籍学生数	17(4) 名
授業料( /年)	216(12)千円
大学院生の奨学金( /月)	65(6)千円
講座当たりの平均予算額	460(?)万円
助手の初任給	150(13)千円
研究室の床面積	2(1)
求人会社数	900(?) 社

(電気、昭和33年卒、大阪市立大学工学部電気工学科)

## 化学工業界におけるモデル企業を目指して

福村 吉晃



第1次ベンチャービジネスが呼ばれる初期であった。45年私は、東洋ゴム工業㈱の中央研究所をスピンオフした。1kgでも1ケでも独自に開発した製品が世の中にでゆく会社をつくろうと考へた。家の裏庭にプレハブの小さな小屋を

建て研究室をつかった。そして東洋ポリマー株式会社を設立した。販売は商社にゆだね、生産は下請にといいた格好で、考へることに重点を置いた。研究者は大阪市大卒業者を勧誘し集めていった。丁度15年目の今日、資本金1億3千万円、1研究所2工場2営業所3下請工場、年商20億円に成長した。市大卒業生は20名程いる。顧問会計士も市大卒で、出入りの印刷屋さんも市大卒である。

私は自慢しているのではない。大企業で潰されてゆく化学研究者が気の毒である。研究者のあり方、意気揚々と働らせる企業の研究のあり方を探求して日本の化学工業界におけるモデル企業を目指している。市大という学閥的気持はない。しかし、市大卒の人々が当社を支へ、拡大してくれたエネルギーと見識・能力は偉大であった。私にとって市大は母であった。

(応化・昭和33年卒・東洋ポリマー㈱)

## 基礎学力が大切

河内 秀二、



実務に就いて20年も経つと、それなりに経験が豊富になり、知識も増えるはずであるが、私の場合、今、振り返ってみると、どうも大学時代に習った以上の域を出ていないような気がする。

私が学生時代に不勉強だったせいで、よけいにそう思うのかもしれないが、今でもときどき必要にかられて、試験前に一夜漬けで赤線を引いた教科書を見直すことがある。

その中で、現在でも役に立つものといえば、応用的な科目よりも、基礎的なものが多い。

従って、私の経験からいえば、大学というのは、移りゆく先端技術を教えるよりも、学生には基礎学力をつけさせるのが一番良いのではないかと考えている。

幸い、市大では基礎教科を重視されていたと思うし、当時うるさいなと思った先生にそれらの講義をご担当して頂いたことを、今になって感謝している次第である。

(機械、昭和38年卒、栗本鐵工所)

## 今昔の感

高端 宏直



懐しい扇町の学舎を去って早や27年の歳月が流れた。同期生は本年度中に50の誕生日を迎えます。何となく人生の後半に入っているようで、ショックな感もします。私事で申訳けないですが、次男も本年から母校にお世話になっています。

入学手続き時に息子と共に、初めて杉本町の全キャンパスを散策し、占領軍に接収され、銃をもった兵隊を横目に一度だけ大学祭をみに来た学生時代の話をお聞かせしました。雨中の学舎返還要求のデモに参加した事も浮んできました。あこがれの大学に、浪人をしてやっと入学して、大学は面白くない、講義がくだらないとか、近頃よく耳にします。平和な物質的に恵まれた社会で、批判や思考の対象や刺激的な事象もない為でしょうか。予備校の教師の熱弁がよい講義と考えているのでしょうか。次代を担う学生諸君が、良い意味でのエリート意識をもち自らも学ぶ精神を持合せて載きたいものです。先日、3大学のグリーを鑑賞する機会をもち、懐しい学生歌をきき感動しました。(土木、昭和33年卒、国立明石工業高等専門学校教授)

## 思い出

岡橋 和郎



20年ぶりに杉本町を訪ねる機会を得た。授業をさぼって熟中した麻雀屋はそのまま残っており、教養部の広場や学生ホールは昔の面影をとどめていた。工学部の玄関に足を運びながら、小生らが学んだ扇町学舎のことを思い出していた。

木造建の薄暗い教室で実験中、トリアリールホウ素を燃やすという失敗をし、友人らと火災を食い止めた事、持異な悪臭を放つメルカプタンを大量にこぼし、工学部の皆様に迷惑をかけた事、研究室で酒を飲みすぎ羽目をはずした事など。

小生らが応用化学科4回生の頃、指導していただいた熊田教授が転任され、後任は大饗教授になった。それ故卒研テーマを2つ持つことになり、かつ、2つの研究室の多くの先生方から公私にわたり御指導を受けた事が、今、会社での研究開発遂行に大いに役立っていると感謝している。後輩諸君も大学で学び取る事はしっかりと身につけ、大いに青春を謳歌してもらいたい。

(応化・昭和38年卒・三菱電機生産技術研究所)

私の体験

三宅 邦夫



卒業と同時に今の会社に就職し、22年が経過した。その間の17年間は国内国外の現場建設工事を担当し、最近6年間はサウジアラビア、アラブ首長国連邦等におけるターンキー契約のプラント建設工事に従事してきた。6年前の最初の海外渡航がサウジで、イスラム暦の1400年であった。1400

が示すとおりの中世的な街並みと言えば聞えが良いが、廃墟のようなレンガ造の家がたち並んでいた。しかし、現在では超近代的な工業団地やモダンな高層ビルが建ち、道路網と公園緑化が整備され、近代都市に変身している。

中東においては、日本的な発想を180度転回し、どのような事態が発生しようとも不思議ではないという考え方が肝要である。シャワー用の湯わかし器が爆発し、プレハブ1棟が全壊したり、トイレの換気扇がサンドストームの強風で回転がとまりモーターが焼けて火事になる寸前であった等、常識では考えられない事態も生じ、今から考えても冷汗ものである。

(土木、昭和39年卒業、日立造船K.K陸機営業本部)

17年半を振り返って

北田 俊行



これを機に、卒業してから今日までの17年半を振り返ってみた。卒業後2年の修士課程を修了し、阪大の博士課程に進んだ。5年間の勤務期間を含め計8年を阪大で過ごした後、市大に戻り今日に至っている。ただそれだけのことなの

だが、卒業当時と今とは大きな変化がある。

当時、父の下に7名だった家族も今は、母、妻、長男と私の4人となった。土木教室の先生も当時からおられるのは8人だけである。修士2年の時は大学紛争でほとんど授業がなく大学問題で明け暮れた。当時、市大に初めてコンピュータが入り、最初のホートルンの講習会に出たのを記憶している。それが今ではコンピュータ無しでは済ませられない時代となった。又、最近は、英会話の必要性も感じる。常に持っている期限付きの仕事の数が年々増えてくる中で、日に日に進歩するコンピュータの使い方、英会話、数学などといった研究者として必要な基礎能力をいかにみがき、それをいかに維持するかが、これからの私の課題の一つでもある。

(土木、昭和43年卒、大阪市立大学工学部助教授)

私の仕事

宮本 万功



昭和43年大阪市に奉職し、公害防止のうち、水質汚濁防止、浸水防除に関する機械設備の設計・施工等に携わってきた。その間、大阪市の下水の面積普及率は昭和43年末に55.6%であったのが、昭和59年末には99.3%と拡大し概成し

たかに見える。ところが、市内の都市化の進展、地下水利用による地盤沈下等に起因して、下水道の整備された地区においても浸水が発生する現状で、面的な整備が完了した現在、質的な向上を図っている。大阪市域の約90%は自然排水が不可能で、ポンプによる雨水排除が必要で、抽水所と呼ばれるポンプ場が建設され稼働しているが、下水の普及率の低い時期には、ポンプ等の運転音を聞き、市民を浸水から守ってくれているという感謝の念を持ったが、近年、浸水を防除するような公的な施設であっても、騒音・臭気は迷惑なものであり、二次公害防止に多額の投資と技術的な検討が必要となってきている。大阪市でも、抽水所に限らず処理場の設備についても、二次公害の発生を極力防止するよう機械設備により工夫を凝らすようになってきて、下水道に携わる私達、機械技術者の果すべき役割はより大きなものとなってきていると痛感しています。

(機械、昭和43年卒、大阪市下水道局建設部)

思うこと

坂本 勲

通産省工業技術院傘下の国立研究所で研究に従事していました私が、昨年の11月から工業技術院本院のほうで働くようになりました。毎日、筑波から片道2時間かけて霞ヶ関まで通っています。今まで研究室で不自由なく(?)働いてきましたが、この自由を与えてくれる為に多くの人が働いていることを知りました。適度の研究予算を使用していたのですが、その予算要求の為、通産内で、また科技厅や大蔵省と折衝していた人がいたわけです。海外への出張にしても、実に多くの人が携わっています。今まで自己中心的であった考えを少々反省しています。近年、産・官の協力が重要ということで、国立研究所の中に民間の研究者が金を持ってやって来て、共同で仕事をする話もあります。私もまた研究所へ戻って仕事を続けるわけですが、行政部門での経験をこれからの研究に生かすことが出来ればと考えたりしています。

(応物、昭和43年卒、工業技術院)

子連れ同窓会

井上 清司



我々が入学したS44年という年は、大学紛争の真盛りの年であった。入学式もなく約半年間、クラブ活動や自主講座そして機動隊との鬼ごっこなど貴重な大学生活を楽しむことが出来た。我々の同窓会は、44年入学生集まりである。

卒業年では48年から50年にわたる。会社では中堅として最も多忙な連中ばかりである。しかし、卒業当初から非常にまとまりの良い同窓会であり、電話だけで大阪近辺は直ちに連絡がつくし、「同窓会」という名で集まる事は少なかった。この様ななかで昨年からはじめたのが、「家族連れ一泊同窓会」である。幹事は、お子様用、奥様用プログラムなど半年前から準備をする。今年でまだ2回目であるが、大変好評である。未だ独身の者もいるが、彼らにも評判は良い。明るい太陽の下での家族ぐるみの付き合いは、夜のスナックでの酒飲み同窓会よりも遙かに健康的で楽しいものである。皆様も如何ですが、「子連れ同窓会」は？（建築、昭和48年卒、大林組本店）

七年前を回想して

林 正博



今年も就職戦線が終ろうとしています。毎年、この頃になると思い出すのが、7年前の事です。昭和53年は、オイルショックが尾をひいて、就職状況は最悪でした。特に博士卒は求人数も少なく、様々な伝手を頼って東奔西走しておりました。たまたま、原納教授の所へ、合成系の人間が欲しい、という話があり、会社内容もほとんど知らないまま会社訪問しました。日本農業という会社は、当時、資本金数億の農業専門メーカーで、一部の農学系の人に知られているにすぎませんでした。試験の内容はほとんど覚えていませんが、会社志望動機をたずねられ、「鶏口となるも牛後となるなかれ」という意味の答えをしたと思います。つまり、大きな組織に埋れなくなかったからだと思えます。その後、会社は、肝臓薬の発売等で、資本金も四十数億になり、研究所の組織もやや大きくなりましたが、当初の家族的雰囲気は今も残っています（最近の若い世代は採用人員も多くなり、上司とのつきあいも気楽にはゆかないようですが）。たまたまの機会は大事です。「一期一会」を大切にしたいと思えます。

（応化・昭和48年卒・日本農業㈱）

都市計画とは何か

岸田 全玄



学窓を巣立ち10年余、初めて都市計画行政に携っております。しかも、住民に最も近い小さな自治体での業務は、今まで「都市計画」に対し抱いていたイメージを根本から覆されるかに思われる昨今であります。

都市計画の意義は総論において、住民にも理解が得られ、又、行政に対する期待は大きいものの、各論においては、価値感の多様化、個人意識の高揚等、都市計画を取り巻く情勢はなかなか厳しいものである。

「軽・薄・短・小」という言葉がもてはやされているが、都市計画は目先にとらわれることなく「重・厚・長・大」な心構えで臨まなければならないと心に念じつつも、悲しいことではあるが内外の要因により、もろくも押し流されることが多々ある。

都市計画にはBESTという概念はなく、あくまで総意を得るべくBETTERを目指す調整作業であり、作定された計画はその過程における妥協の産物であろうか。

（土木、昭和48年卒、美原町都市計画課長）

近況報告

榎本 秀和



先生方、同期の方々、御無沙汰しています。この頃は、多忙にまぎれ、目と鼻の先の堺市に住んでいるながらほとんど大学へは足を向けた事がなく申し訳なく思っています。

さて私は現在プラスチックの新製品開発および部内のCADシステムの運用推進を担当しています。毎日コンピュータと“格闘”しておりますが、技術屋にとって今までのやり方とは全く違ったおもしろい世界が出現しそうです。特にこれからは『創造力』が最も重要な能力となるのではと感じています。ところで、ここ数年、私も含めて「適齢期」になり年に2、3回結婚式がありますが、その時は同期会のようになり話がはずみます。ただ、これらの機会以外に同期会といったものはほとんど行なわれておらず、怠慢を反省しています。そこでこの場を借りまして、S63年（だいたい先ですが）『卒業10周年大同期会』を開くべく努力する事を誓いますので、先生方並びに同期の方々の協力をお願い致します。最後に皆様方のご健康と今後の発展をお祈りしてペンを置きます。

（機械、昭和53年卒、久保田鉄工㈱、合成管研究部）



## サイエンジニアとしての出発

三上 明義



私は今春、11年間にわたる学部および大学院での生活を終え、メーカーの研究者として再出発致しました。本来、大学では基礎研究のみ行っておりますが、メーカーでは1つのデバイスを実用化していくために高度な知識と技術を有する各方面のスペシャリストが相互に干渉しながら直列に接続しております。私は入社当初、そうした研究開発体制に直接触れ、ある種の感銘を受けました。アカデミック性を重視する大学がサイエンティストの場であり、技術面を重視するメーカーがエンジニアの場である時代は過ぎました。メーカーではサイエンティストとエンジニアの両方を備えていますし、大学もエンジニアが行うべき研究の場へ入ってきています。私は両者の中間の立場にある研究者が今後、重要な意義をもつようになると考えており、これを“サイエンジニア”と名付けたく思っております。サイエンジニアは決してどっち付かずの研究者ではなく、サイエンティストとしての思考力を備え、更にエンジニアとしての技術力をもつ人のことです。そんな研究者像を求めて、諸先輩方の仲間入りをしたく思っている次第です。(電気・昭和53年度・シャープ(株)中央研究所)

問う年令に来ているようだ。(応物、昭和53年卒・東洋ゴム工業(株))

## 後輩の皆さんへ

親木 康高



早いもので、大学院を卒業して5年半が過ぎました。在学中、集中講義で三菱互斯化学の黄慶雲先生が、『就職して最初の十年間は会社の個人に対する投資期間である』と言われたのが思い出されます。会社が設備投資に対して2~5年の減価償却期間を設定することからすると、人の選定が会社にとっていかに大きなリスクを伴ったかけであるかがわかります。最近では、新素材、バイオテクノロジー、各種電子デバイスの開発といった新しい技術集約型産業の発展が著しく、それに伴って科学技術者の卵である理工系学生の価値が見直されています。しかし、このようなハイテクノロジーの基には地道な研究の積み重ねがあります。私の場合、大学院で触媒化学を専攻しましたが、会社に入って、役に立ったのは、粉体の表面積測定法といった極く基本的な技術でした。

後輩の皆さん、どうか、在学中に十分な基礎知識を身につけて下さい。……少々、悔恨の情をこめて……。

(応化、昭和53年卒、塩野製薬(株))

## 母校と私そして企業

太田 豊治



原稿締切りが迫って、慌ててこの文章を書き出した。それほど最近では母校とは縁遠くなり、同窓会の方々には申し訳ない限りである。

個人として母校を考える機会はなにもあらずだがそれ以上の

思い入れもせず、OB会との結び付きもピンと来ないというのが周囲の同年代の声である。私もこれに漏れない。母校に、そしてOB会に何を求めるかが年代によってかなり異なっているように思う。これはそのまま我々の居る企業内の現状でもあるようだ。企業に対し何を求めているかが、世代により異なるのだ。ここに企業のTOP、管理職の御苦労があるだろう。

我々の世代はOB会や企業に対して上記の事を真剣に考え始める年代になっているようだ。我々が何らかの影響を母校から受けているのは確かだ。そして、一般社会や企業の中で育った我々が、今度は逆に母校に影響を及ぼしていくことを意識し、実施する余裕が有るかを自分に

## 大学時代の思い出

村岡 直



大学時代の思い出と言えば、私の場合、先生には失礼ながら講義や研究に関しては全くなく、友人のことである。応物58年卒には非常に愉快的仲間が集まり非常に有意義な学生時代を過ごせたと、同期生皆に感謝している。パソコンゲームに夢中になり狂声を発して建築学科の先生を怒らせ、わざわざC棟からB棟まで出向かわせたやつ。夏、海に行き、酔って半分体を砂に埋もらせて寝ていたやつ。酔った帰りオレを殴ってくれと友人に言い、本当にボコボコに殴られて次の日目を充血させて学校へ来たやつ、等々。みんな私の良き同期生である。

在学生諸君へ望むことは、是非、一生つきあえる友人を大学時代につくっておくことだ。それだけで大学に行った価値の8割は達成されると思う。あとは先生を悲しませないほどに勉強と研究に励んでほしいということである。(応物・昭和58年卒・東京エレクトロン(株))

雑 感

鈴木 浩文



学部を卒業して既に3年近くの歳月が過ぎようとし、皆様方各方面で御活躍のことと思います。

私は、2年間大学院で過ごし、今春、民間企業の研究機関に勤めました。民間サイドからの研究という事で色々戸惑いも感じていま

す。職務は超精密機械加工技術の研究開発であり、時間があれば、何か自然現象を利用した新しい加工法はないものかとあれこれ思考錯誤しているのですが、何分生産現場から持ち込まれる種々の雑用（ノルマ）におわれ、なかなか本業の自主的な研究開発に着手できないのが現状であります。また、社内技術への直結性が要求される様に感じます。しかし、大学などにおける研究と本質的には異なる気がします。技術の開発とは自然現象との闘いであり、現象の解析がベースになっていると思います。

なお、58年機械卒業のクラス会は毎年正月に開かれており、過去2回共好評のうちに終わりました。61年度も多数出席される様お願い致します。

(機械、昭和58年卒、三菱電機(株)生産技術研究所)

共通一次一期生の技術屋

大谷 康晴



私達58年卒は少し特異な存在であったと思います。それは共通一次一期生であったことです。「覇気が無い」とか「軽薄短少だ」とか酷評もありましたが、私自身は勉学に遊びにいそしんだ気がします。特に建築学科ということで、製図

室なる皆が集まる根城があったので、製図や力学の試験勉強に追われ泊りを重ねる中で、東の間の休息が宴会に早変わりしたり、簀巻きがはやったりしました。おでん作りのために内職をしてじゃがいもの皮をむいていた諸氏もいました。

ところで、現在「ハイテク時代」と言われて技術屋がもてはやされていますが、私が社会に出て少なからず感じることは、これからは手に素晴らしい技術を持ち事務屋さんのように人を動かしていくプロデューサーが求められていくだろうということです。

このようなことを考えると、ただ共通一次の成績だけで学部や学科を選択し、学生時代に何かしら騒いだ思い出しが残せないようでは、ダメなのかしら。

(建築、昭和58年卒、横浜市)

努むるは好むにしかず、  
好むは楽しむにしかず

山本 喜久



永かった学生生活を終え、本年4月より晴れて社会人としてスタートをきりました。実際、企業における技術者に対する独創性の要求が、こんなに厳しいものであったのかと驚いています。

創造性に関する記事をよく見ますが、私はまず自分の仕事に対する情熱を失なわないことが必要でないかと思います。

先日、おそらく30年以上この情熱を持ちつづけていると思われる私の上司が、「私は楽観的に仕事をしている。」と言ったのが強く印象に残っています。「努力してやるのは好きでやる人にはかなわない、好きでやるのもいいが楽しんでやる人にはかなわない」と云う諺をその時思い出しました。

社会に出てみて、市大工学部のOBの絶対数の少なさが少しさびしい気もしますが、逆に自分達が市大の特色を創っていくのだという実感は、他では味わえないことかもしれません。自分の仕事に楽しみを感じれるよう努力したいと思います。(応化・昭年58年卒・ダイキン工業(株))

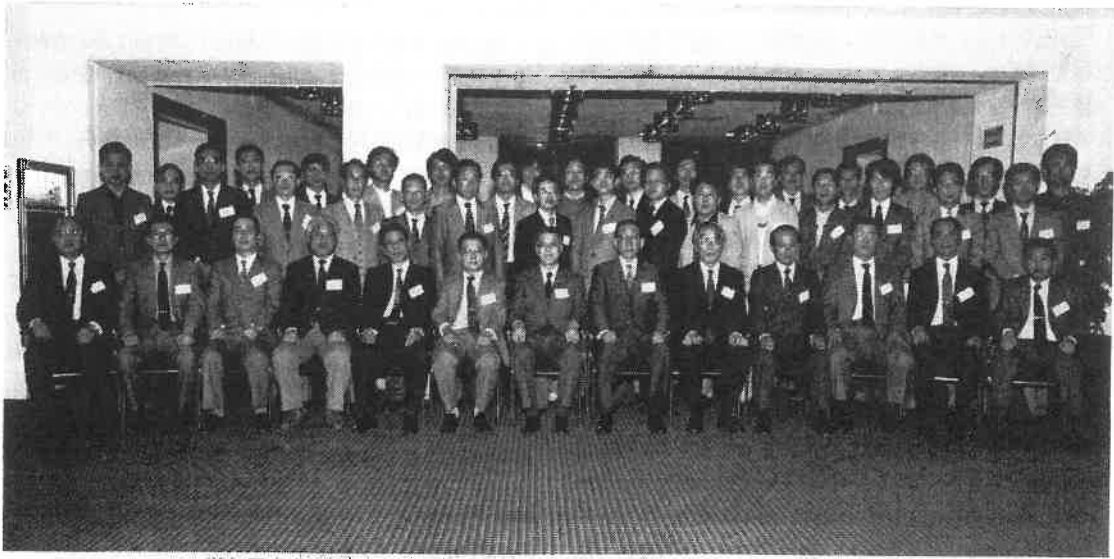
工学部同窓会関東支部の初会合開催

片井 振武

大阪市立大学工学部同窓会事務局の方々のご支援と、関東在住の工学部同窓生有志各位のご賛同ご協力をいただき、この10月19日に、大阪市立大学工学部同窓会関東支部の第一回会合を盛大に開催することが出来ました。

当日は、ご多忙な安藤慶一工学部長が大阪からあえてご出席下さったのははじめ、有恒会東京支部長の瀬川美能留様ご名代の波山弘事務局長代行、ならびに工学部同窓会長代理として倉田克彦前理事のご出席をいただき、各界でご活躍の同窓生 113名がご参集下さいました。会場の野村クラブは、超高層の、新宿野村ビルの48Fにありまして、新しい副都心の夜の景観を見下しながら、和やかな雰囲気でもことに楽しいご歓談の一時を過ぎていただきました。とくに、有恒会東京支部のご代表からは、将来の市大同窓会一本化のお話しを含めた暖かい心のこもった激励のお言葉を頂戴し感謝致しました。このようにして、関東在住の工学部同窓生相互の親睦を図る有意義な機会を持つことが出来たことを心から感謝致し

(P.12へつづく)



工学部同窓会関東支部第一回会合 ('85.10.19) 記念

〔電気卒業生有志〕



同 上

〔機械・応化・応物卒業生有志〕



同 上

〔建築・土木卒業生有志〕

ますとともに、私達一同大いに頑張つてこの会を盛り上げていきたいと存じますので、今後共多大のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

振り返りますと、昨年11月発行されました第4号同窓会だよりに、関東における工学部卒業生の同窓会の動静について投稿致しましたとき、6学科合同の同窓会の開催を提案させていただきました。その後、今年5月に関東在住の同窓生有志9名〔機械：片井振武（22年卒）、飯田明敏（31年卒）、電気：杉美知男、橋本雅之（共に36年卒）、応化：福村直樹（47年修）、田嶋哲夫（49年博）建築：中沢次郎（22年卒）、斎藤俊雄（33年卒）、土木：草木陽一（34年卒）〕が発起人会を開き、9月に関東在住の工学部同窓生各位にこのたびの初会合の開催をご案内致しました。そして、10月上旬には、福村、杉、中沢、片井の各発起人が、田村博（33年機械卒）土谷敬一（54年機械修）、竹中清和（22年電気卒）、中村俊雄（33年建築卒）、宮本潔（37年土木卒）、正道博昭（38年土木卒）、内田毅（36年応物卒）の諸兄のご協力を得て実行打合せ会をもち、具体的に企画を進めて参りました。

幸にも、関係各位の真にご熱心なご協力により念願の6学科合同の同窓会を実現し得ましたことは、発起人の一人として嬉しい限りであります。ご協力下さいました皆様方には衷心より深く感謝申し上げる次第です。

近年の社会・経済の動向は、技術革新や高度情報化の進展と相俟つて想像を絶する早さで変貌を遂げており、横断的ネットワークが強く要求される時代です。大阪市立大学工学部も創立40周年を迎へ、より一層の発展を目指した記念事業が同窓生の協力の下に種々実施されてきました。このような時期に当り、工学部同窓会関東支部の発足に向けた第一回目の集いを盛大に実現し得たことは、まことに意義深いことと存じます。また、前述のように、有恒会東京支部との合体、一本化も話題にのぼっております。今後とも各方面の一層のご協力をお願いするとともに、同窓生相互の旧交の輪が少しでも大きく広がることを祈りつつ、発起人代表といたしましてここにご報告させていただきます。（昭和22年機械卒 山田工業㈱）

## 同窓会報の名称が決まろうとしています

編集委員会

3年以上も前になりますが、編集委員会で、本同窓会報に名前を付けることが話題になりました。そしてその年の会報第3号、および続く第4号を通じて、会報の名称を応募して下さいよう会員の方々に呼びかけたのですが、この間一つの御推薦もいただけずに過ぎてしまいました。

このの起りは、都島工専を卒業されたのち当時の旧制大学に進学された方々や、理工学部を卒業された方々にとって、「工学部同窓会（報）」という名称はすんなりとはなじまないぞ、との御指摘があったからであります（ちなみに本会報の第1頁を御覧いただきますと、題字には工学部同窓会の文字が三ヶ所あります）。この御指摘が誠にごもっともなことであることは今もって変わりありません。さらには、若い会員の中にも、会名もしくは会報名として親しみの持てる名前を望まれている方々がきつとおられることでしょう。

今期の編集委員会は会報名の問題にもっと積極的に取り組むことを申し合わせたのですが、さりとて、編集委員会が独断で会報の名称を付けますと、末代に禍根を残してしまうような名前にもなりかねません。思案の末このたび、同窓会の元会長・副会長の方々に名称の御推薦をお願いいたしました。中には、相当がんばってみたが結局気に入る名前が出てこなかったとか、あるいはやっと一つ考えたと御苦勞話を添えてこられ、難産の御見舞をさし上げておなぐさめしなければならぬほどに御迷惑をお掛けした方々もおられたのですが、とにかく以

下のよう十指に近い名前を考案していただきました。

- ① 陽光会報（陽光クラブ会報）
- ② 瑞光会報（瑞光クラブ会報）
- ③ 成塔会報（積沙成塔より塵も積れば山と成るの意）
- ④ 技友会報
- ⑤ 六美会報（六は6学科を示す）
- ⑥ 六友会報（ムツミ）
- ⑦ 市工会報（シゴフ）
- ⑧ 聚工会報（工につどう）
- ⑨ 濔工会報（大阪市の濔標、零の原点にかえて無限の発展を望む心）

きて、これらの内から一つを選ばせていただくのが良策かと存じますが、今一度慎重を期して、会員諸兄の中から、会報名についての御意見、上記名称案についての賛意、もしくはこれらの名称以外にコレゾといった名前の御推薦をいただく機会を設けてはと存じます。なにしろ、事のいきさつから考えて、会報の名称が同窓会の名前にそのままスライドすることも十分予想されますので、晩秋から初冬にかけての夜ながのひとときを会報名についての思索にぜひともお当て下さいますようお願いいたします。積極的な御意見・御提案をお待ちしています。

なお、編集委員会といたしましては、理事会の御意見をうかがった上で、次号（6号、1986年発行予定）の会報は是非新しい名称で発行したいと考えております。

## 事務局年報 ('84・11~'85・11)

'84年11月…建築学科同窓会へ、次期会長候補の推せんを依頼(27日)。

12月…工学部創立40周年事業委員会より、貸出金の元利合計額を受領(27日)。

'85年1月…第6期第4回理事会で、第4回評議員会の議案書を検討(19日)。機械工学科主任より、当会事務局の早期移転と事務局員の兼務解消の要望を取受(24日)。

2月…田中記念館にて第4回評議員会ならびに懇親会を開催。以下の主要事項を承認(23日)。

(1)第6期('83・1~'84・12)収支決算報告

(イ)経常費収支決算表(円)

収入の部		支出の部	
終身会費	7,285,150	評議員会(2回分)	100,130
第5号名簿代	3,103,900	名簿(第5号)	6,472,310
広告協賛金	830,000	事務局費	1,857,095
寄付金	53,500	特別基金積立	4,000,000
預金利息	958,656	貸出金	2,000,000
返却金	2,000,000	第4号会報	849,000
		次期繰越金	△1,047,329
合計	14,231,206	合計	14,231,206

(ロ)貸借対照表(昭和59年12月末現在)

借方		貸方	
手許在高	7,860	剰余金	7,392,338
振替口座	34,644	特別基金(元利)	18,230,496
預金(元利)	25,580,330		
合計	25,622,834	合計	25,622,834

(2)役員改選(P15、16参照)

会長が、井田憲治氏(2期4年間在任)から建築学科の卒業生(人選中)に、副会長が蔵田廣造氏から東田和郎氏に、また、理事の西村昂、倉田克彦両氏が望月秋利、日野素雄両氏に交代されることになった。なお、評議員を、各年次の専攻学科毎に1名選出していたのが、若干名に増員することになった。

(3)第7期事業計画('85・1~'86・12)

(イ)会報第5号、6号を昭和60年、61年に発行。(ロ)特別基金の積立継続。(ハ)財産管理・活動内容の見直し。(ニ)同窓会事務局の移転と、専任パートの週5日採用の具体化。(ホ)創立40周年記念事業の主目的である“工学部学術交流センター(仮称)”の早期実現への協力。

(4)第7期経常費予算(万円)

収入の部			支出の部		
昭和年度	60	61	昭和年度	60	61
前期繰越金	7,39	704	特別基金	200	200
終身会費	3,40	340	評議員会	14	5
預金利息	40	40	会報	90	95
その他	10	4	事務局	121	117
			繰越金	704	671
合計	1129	1088	合計	1129	1088

当会の専任パート事務局員住岡さんがご退任(末日)。

3月…週5日制の専任パート事務局員として、岸節子さんを採用(1日)。工学部創立40周年記念事業の募金事務支援のため、事務局員の作業場所をA棟2階準備室へ移転(18日)。事務局用ファイリングキャビネット2台購入(20日)。第7期第1回理事会にて、財務委員会(代表中島理事)、ビジョン委員会(代表植木理事)の発足、および増員する評議員数を各クラス当り2名選出すること等を決定(25日)。昭和59年度工学部送別式(当会の卒業祝賀鏡割りも併催)に、副会長、理事有志出席(25日)。昭和60年度学部・大学院合格者に会則、入会案内を配布し、準会員としての協力を要請(20日)。

4月…特別基金(昭和60年度積立分)を、大阪市農協へ領入(19日)。

5月…市大後援会評議員として東田和郎副会長を選せん(20日)。木村進大阪市立大学事務局長より、「市大同窓会一本化に向けて現存の同窓会連合会を活性化し、各同窓会間のコミュニケーションを促進したい」との着任要望を拝聴(31日)。

6月…都土六木会第7回総会に事務局担当理事が初出席(8日)。片井振武氏(機22年卒)より、当会の東京支部組織化の動向を確認(17日)。評議員の増員・改選作業を開始(26日)。市大同窓会連合会懇談会(別項参照)に、会長・副会長の代理として、植木・人見両理事が出席(24日)。

7月…第7期会報編集委員が発足(4日)。

8月…東田副会長が安藤工学部長ご母堂の葬儀に参列(16日)。

10月…工学部同窓会の関東支部発足に向け、新宿の野村ビルで盛大に開催された第一回会合に、倉田克彦前理事が会長代理で出席(19日)。第7期第2回理事会で、足立幸一氏(建29年卒)の第7期会長就任が確定、関東支部の発足は大歓迎であるので会則の変更などの検討をはじめめることを了承(25日)。足立会長が有恒会の創立25周年記念総会に出席(27日)。

11月…第5号会報を配布(25日)

### 大阪市立大学百年史「全学編」領布の予告

百年史「部局編」に引きつづき、「全学編」の発刊が昭和61年3月に予定されております。

購入御希望の同窓生への領布は、百年史「部局編」の場合と同様に、大阪市立大学後援会を通じて行われます。詳しくは同後援会(06-692-1231)にお問い合わせ下さい。

役員名簿（昭和61年12月末迄）

**会 長** 足立 幸一（建築29） **副会長** 東田 和郎（機械20）  
**理 事** 大月 正雄（機械24） 人見 宗男（機械31） 南齋 征夫（機械39） 東 恒男（機械41）  
 塩山 正治（電気23） 中島 弘（電気25） 岡本 次郎（電気39修） 南 繁行（電気45）  
 井口 悌二（応化28） 大橋 邦夫（応化32） 玉垣 誠三（応化39） 大嶋 寛（応化49）  
 坂内 幾男（建築24） 都築 周（建築29） 多胡 進（建築34） 赤崎 弘平（建築45）  
 植木 正富（土木24） 中井 博（土木34） 望月 秋利（土木44） 日野 泰雄（土木50）  
 北田 忠義（応物36） 田守 芳勝（応物38） 石黒 英治（応物40） 茶谷 修治（応物50）  
**監 事** 保坂 博通（応物34）  
**評議員**

卒業	機 械	電 気	応 化	建 築	土 木	応 物
20	宝力良幸	中野稔	—	高野孝	能城正治	—
〃	藤井勝美	森岡甲子男	—		富田利博	—
22	清久泰一	池田善雄	—	高橋通男	中津允秀	—
〃	戸波淳	吉田宗太郎	—		小林幸夫	—
23	澁谷哲男	山田悦三	—	西川幸之輔	小谷昇	—
〃	平野輝夫	大給昭二郎	—		吉井正	—
24	油川勇人	金田弥吉	—		松下勇	—
〃		船木八郎	—		安達成光	—
25	片山拓二	安藤周二	—	大東清西	生島一成	—
〃	吉田武夫	小林雄介	—		米花栄太	—
26	副松晃	牧野正男	—	小河一真佐	井上保	—
〃	熊沢行雄	西川淳	—		榎谷新録	—
28	中川晴夫	橋本賢一	岡本由之	福田充宏	—	—
〃	葛井良夫	桑形正博	河合和三郎		—	—
29	日枝仁郎	立石浩二	田岡二郎		田井戸米好	—
〃	下田隆二		神先健		今井淳雄	—
30	杉浦重光	金田幸雄	岩井武彦	田口泰三	山野昇治	—
〃	西尾雄太郎	谷邨武雄	辻雄一郎		堤良彦	—
31	秋山高治	壺井芳昭	小林辰一	安藤昌範	嶋、経夫	—
〃	野中義弘		森井賢作		懐原忠司	—
32	中島光夫	加藤隆三	木下雅悦	長町守康	吉村憬	北林進
〃	田中宏	川埜清	前田貞夫		玉井義弘	繁沢孝
33	小西俊二	細川省一	福村吉晃	内藤徹男	高端宏直	薩摩逸雄
〃	鈴木直行	井口恵司	安本登		塩崎信雄	
34	向阪保雄	小西陽雄	上原敏男	木村久夫	山崎真喜雄	西田新
〃	藤野英成	関司菊次	不可三晃		木下成美	馬宏司
35	川越浩		們章	小島弘	上田伸三	粟根克昶
〃	菊澤一雄	井上実	堂浦武博		辻康男	花坂孝雄
36	小川次夫	塩飽弘	中出伸一	溝神宏至朗	園田恵一郎	村上宏
〃	紺谷康夫	矢野孟彦	平山純一		大曾根利彦	比企執
37	尾崎俊夫	高下照久	近藤紘一	八木勝	沖野真	西村仁
〃	河西勇	藤田尊志	後藤啓介		佐野光茂	
38	河内秀二	森下昂	浅岡力	有光友興	小田一紀	嶋谷宏之
〃	阪口鉄兵	中植信良	岡橋和郎		伊藤和雄	藤井康夫
39	土井紀宏	長井一郎	渡辺隆夫	木本英爾	高田直俊	室野義隆
〃			木曾定紀		中田善久	武林正峯
40	常次哲也	倉田一之	五百井正樹	浅野誠	山田優	片山逸雄
〃	小林良三	西川一成	田原誠一郎		百鳥節雄	志野太一

評議員

卒業	機 械	電 気	応 化	建 築	土 木	応 物
41	溝口 進	森井 征治	山口 英昌	貴志 義昭	湊勝比古	川島 順弘
〃		小出 哲	山内 清		中村 正治	奥田 賢三
42	村田 一夫	片岡 二郎	三浦 洋三	坂 寿二	大谷 孝彦	八木 邦夫
〃	北垣 宏		萩野 健治		畑中 昇	諸木 赫夫
43	宮本 万功	坪香 英一	伊木 義雄	荒木 弘	北田 俊行	堀内 泰男
〃	中芝 明雄		吉田 豊吉		中西 正昭	伊藤 真一
44	池田 文夫	山本 正樹	谷本 高敏	大倉 良司	角野 昇八	萬代 信司
〃	馬場 啓司		牧野 吉夫		竹内 雅宏	奥田 三郎
45	七條 徳成	梅本 伸作	鈴木 晃	久保田 弘昭	小林 治俊	和倉 慎治
〃	中西 岩大	吉本 幸一			真嶋 光保	野田 忠男
46	上道 俊和	森下 勉	山田 悟	大西 康雄	伊藤 忠	岩永 良一
〃	瀬川 良一	山口 治男			鷺見 明	太巻 隆信
47	岡本 利一	赤木 利行	吉田 育義	三宅 良一	川本 清	藤井 高士
〃	岩佐 一達		中野 健次		高内 悦次	山本 善英
48	辻本 良秀	河合 寿夫	林 正博	井上 清司	岸田 全玄	田中 幸一
〃		日野 誠二	安田 裕行		仲野 茂寛	西尾 健
49	三木 健一	広瀬 義晃	西田 隆行	国田 幸雄	谷 俊一郎	岩井 優
〃			阿部 正男		村松 敬一	
50	中野 康夫	金沢 勝己	門脇 敏史	北野 博己	黒山 泰弘	小森 優
〃	森 隆志	三船 義照	山本 英二		山口 毅	
51	坪倉 由明	前谷 治男	米田 正博	岡崎 道晴	長谷川 良一	
〃		嶋倉 裕一	田村 克之		猿木 吉晴	
52	山中 朗	寺井 賢	大屋 尚洋	中佐 一重	松本 博司	南口 栄志
〃	吉田 稔		大栗 靖弘		吉川 忠一	
53	榎本 秀和	三上 明義	親木 康高	田中 三郎	奥村 彰彦	太田 豊治
〃	井上 高志	西尾 元志			酒造 敏廣	富田 亮一
54	芦田 吏史	松下 行雄	中川 弘	伊勢 博幸	富岡 健一	末国 克己
〃		杉野 友則			西田 潤司	谷口 俊治
55	大山 寛	串坂 徹	大槻 莊一	永島 敏朗	川口 和也	多良 勝司
〃		石見 泰造	岡本 清		山根 義洋	坂本 涉仁
56	松吉 徹也	向井 博臣	梅田 尚繁	小西 浩夫	安藤 亨三	真鍋 幸一郎
〃	古野 隆史	梶木 克則	山口 繁司		太田 誠一	小倉 裕史
57	前原 克彦	田 邨 裕幸	鈴木 健章	高本 永寿	高橋 真一	山本 弘
〃			松本 章一		由川 克司	山岡 徹
58	鈴木 浩文	里見 勝治	山本 喜久	大谷 康晴	阿倍 功高	高橋 光
〃	樋渡 英敏	北村 博昭	山口 真修		山本 智俊	山口 登
59	仲藪 佳典	団栗 知男	田中 修裕	山脇 武志	尾川 仁一	松島 恭治
〃	志波 徹	金子 豊久	野々垣 光裕		松井 圭二	塩田 昌弘
60	杉本 昌治	榎本 有隆	高橋 則雅	今井 潔	村本 哲	河野 哲夫
〃	高橋 秀典	石井 隆	池田 武史		竹内 功	池田 雅和

“大学の歴史・大阪市立大学工学部”卒業生特価頒布

- 申込先：教育文化出版教育科学研究所（東京都千代田区三崎町2-17-1 藤沢ビル [03-264-2706]）●送金方法 郵便振替東京7-52939
- 卒業生特別割引頒価：6,800円（送料込）●出版時期：'85年12月上旬。

## 卒業生各位

大阪市立大学工学部創立40周年  
記念事業委員会委員長 東野 一郎  
記念事業後援会会長 井田 憲治

初冬の候、卒業生の皆様方に置かれましては、各職場においてご活躍の事とお慶び申し上げます。工学部創立40周年記念事業につきましては、かねてより種々ご配慮を賜り感謝致して居ります。お陰様で、記念事業に対する募金活動も、昨年10月開始して以来、当初の募金期限の本年7月上旬迄に約1,500万円の醸金が寄せられました。これひとえに卒業生、教職員等多くの方々の本事業に対するご理解の賜と拝し、深く心より御礼申し上げます。しかし、ご醸金額が予定額に達しなかったことと、事業の主体である「工学部学术交流センター」(仮称)を少し充実するために、下記の通り募金目標額の変更と募金期間の延長を行うことと致しました。そのために新たに企業からも醸金を仰ぐこととし、企業よりの募金額の目標は3,000万円とし、従来の募金目標額と合わせて合計6,000万円とする計画であります。更に、一層の努力をいたしまして、より多くの卒業生の方々のご賛同を得、一日も早く施設の建設を果たしたく念願しております。各位に置かれましても何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和60年11月

### 記

1. 目標額 6,000万円 (内3,000万円は企業より募金の予定)
2. 募金期間 昭和61年7月14日まで
3. 募金単位 1口 5,000円 (免税措置があります)
4. 振込先 大阪市立大学工学部創立40周年記念事業後援会

郵便振替番号：大阪3-10426

(郵便振替用紙はご請求頂ければお送り致します。)

## 編集後記

例年のごとく11月3日の文化の日をはさんで催された大学祭は、大学内の空地がほぼ自動車で埋めつくされてしまうほどに多くの若者が集まり、まことに盛況だったようです。御父兄の参加も多く、工学部を見物される姿をよく見かけました。一方では、今年も救急車の出動があり、おそらく例のイッキイッキでまた急性アルコール中毒の患者が出たのでしょう。工学部は、これから年度末にかけて、卒業研究のラストスパートの時期に入ろうとしています。

後になりましたが、本会報に原稿をお寄せ下さいました皆様方に心より御礼申し上げます。本会報は誌上を通じて会員諸兄姉の交流をささやかながらでも支えているものと自負いたしておりますが、同期会、クラス会等の予告・通知・報告etc.にもっと積極的に御活用頂いてもよいのではないかと思います。

関東地区には同窓生の方々が多く、関東支部設立に向けての活動が盛んなことは、片井氏からの報告文に生き

生きと記されています。まことにうれしいニュースです。他地区でも、支部活動のめばえがあるようでしたらぜひ御一報下さい。

ここ数年来、「40周年記念」の文字を新聞・雑誌に見かけるようになりました。敗戦を機に新たに始まった多くの企業、団体等が40周年をそれなりに一つの節目と見ているのでしょうか。工学部の40周年記念事業もあと一押し必要なようです。御協力をお願いいたします。

南大阪のある新設中学校では校名を父兄から募集しているとのこと。本会報の名称もできる限り会員諸兄姉の御意見をうかがって決めてゆきたいと考えております。

最後に、会員の皆様の益々の御活躍をお祈りいたします。

### 第5号会報編集委員

南齋征夫(機39)、岡本次郎(電修39)、大嶋 寛(化49)  
赤崎弘平(建45)、望月秋利(土42)、石黒英治(物40)  
人見宗男(機31)